

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

自然系コース(理科)

記載責任者

本田 亮

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

#### 1. 目標・計画

○学校教員の最も重要なところである「授業を行う」ための基盤は、その教科内容を理解していることである。このことを踏まえて、教科専門の授業においてその学問的背景を意識した授業と成績評価を行う。  
○教材の作製とその利用方法を議論する機会を設ける授業を行う。  
○フレンドシップ活動、実地教育等において、教科内容と指導方法とを結びつけた実践を行うことを学生に指導する。  
○各教員が上記のことをそれぞれの授業科目の性質に合わせて行う。また、授業以外でも折に触れ、学生への指導を行う。

#### 2. 点検・評価

1. 学部の各学年の教科内容に関する授業科目では、その学問的背景と初等および中等教育の現場で行われている授業との関連性を考えたものとなっている。成績評価の方法は、個々の授業の特性に合わせたものとなっていた。  
2. 教科内容を基礎として、受講生自らが教材を考察し議論する授業科目が設けられている。  
3. 教科内容と教材の考察をもとにした学校現場での活動として、フレンドシップ事業が利用された。また、教育実習を控えた学生にも有用な授業が多くあった。  
4. 各授業はその授業だけで成り立っているものではなく、他の授業や科目と深く関わっていることを、各教員は意識しており、そのような授業構成となっている。  
5. 授業に関する質問だけでなく、幅広い理科に関する質問も学生から多くあり、教員はそれに対応した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- 授業科目の性質を踏まえた内容の授業を行い、成績評価をする。
- 複数教員で行われる授業科目において、各教員の授業内容間の整合性を図る。
- 学生自ら計画・実行・考察する能力を向上できるよう支援する。
- 学生の研究環境の維持および改善に取り組む。

#### 2. 点検・評価

1. 授業内容および成績評価、各授業内容の整合性については、上記「学長の定める重点目標(Ⅱ－1.)」に記した通りである。
2. 授業において考察を求める質問をしたり、そのようなレポートを課すなどして、常に考えることを意識させる授業や指導を行った。
3. 学生の課題研究や卒業研究の内容に関して、指導教員との議論が継続的に行われる環境であった。
4. 学生に対して、研究成果を学会発表、論文発表の形で行うように指導しており、このような場での学生による発表が行われた。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- 各教員の研究方針を尊重する。
- 学生の研究に対し、適切に指導するとともにその環境を保証する。
- 理料コース内だけでなく、他コース、学外の教員との共同研究の機会を保証する。

#### 2. 点検・評価

1. 各教員がそれぞれの研究方針に基づき研究を行い、国内外の学会での発表及び論文発表をした。
2. 学生、特に修士課程の学生に対して、1人の研究者として対等な議論の機会を持ちながら研究指導を行った。
3. 研究の内容に応じて、単独の研究ばかりでなく、学内、学外および他国の研究者との共同研究も実施された。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- 各種委員会・会議において適切な意見を述べる等、大学運営に積極的に参加する。
- 所属する教育部の運営ととコースの運営とが円滑なものであるように維持する。

### 2. 点検・評価

1. コース内の教員は各種委員会、教育部会で積極的な発言を行い、論点の明確化に努めた。
2. 所属する教育部部長とコース長との連絡は滞りなく行われた。多様な課題については、教育部の仕事内容とコースのそれとの関連性が保たれつつ、上手く仕分けされていた。各種委員会についても、コースが異なるの委員間の連絡が円滑に行われていた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- 付属学校園とは、研究会等への助言を与えたり、学部授業の支援を受けるなどの関係を維持する。
- 各種教員研修への協力体制を維持する。
- 地域および次世代への科学啓発活動を続ける。

### 2. 点検・評価

1. 附属学校園とは教科内容を重視した連携をしており、研究授業においては、より専門に近い教員からのアドバイスが得られるようにした。
2. 各種の学校教員研修を担うとともに、教育支援アドバイザー、フレンドシップ事業、各種施設等を通して、地域児童・生徒への自然科学への啓発活動を積極的に行った。
3. JICA研修においては、国内支援、現地支援などに対し、内容に応じて専門の教員が担当した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

機会がある毎に、コースおよび各教員より大学運営に関して質問、意見が出され、問題点の洗い出しの一役を担った。それらは本学の将来を考えてのものであった。